

GUARDIANWALL V7.4 for Linux

Red Hat Enterprise Linux 6 への インストール時のご注意

GUARDIANWALL V7.4 を Red Hat Enterprise Linux 6(以下、RHEL6)環境にインストールいただくにあたって、以下の注意事項があります。

■ 対象製品

RHEL6 環境でご使用いただく場合は『【GUARDIAN】アップデートモジュール 20120518』以降のパッチが適用されている必要があります。

GUARDIANWALL V7.4 インストール後、NEC サポートポータルサイトより過去にリリースしましたアップデート物件の適用をしてください。

※適用手順は各種アップデート物件の README をご参照ください。

■ GUARDIANWALL V7.4 をインストールする前に

1. 必要なソフトウェアの導入

RHEL6 環境には、「基本パッケージ」及び、以下のパッケージがインストールされている必要があります。

必要なパッケージ名

- ◆ compat-db (32bit パッケージ)
- ◆ compat-expat1 (32bit パッケージ)
- ◆ compat-libstdc++ (32bit パッケージ)
- ◆ cyrus-sasl-lib (32bit パッケージ)
- ◆ libuuid (32bit パッケージ)
- ◆ mt-st
- ◆ ncurses-libs (32bit パッケージ)
- ◆ tcl

確認方法

以下のコマンドを実行し、パッケージ名が表示されれば、インストールされています。インストールされていない場合は、「package (パッケージ名) is not installed」と表示されます。

```
# rpm -q (確認を行うパッケージ名) [RETURN]
```

2. OS 側で行う設定

①/etc/hosts ファイルの設定

ライセンスの発行の際にサーバーホスト ID(hostid) 情報が必要なため、/etc ディレクトリ配下の hosts ファイルが正しく記述されているか確認する必要があります。以下はサーバマシン名が mailwall、サーバの IP アドレスが 192.168.0.1 であった場合の例となります。

[/etc/hosts の正しい記述例]

```
127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
192.168.0.1 mailwall.xx.xx.co.jp mailwall
YY.YY.YY.YY .....
```

[/etc/hosts が正しく記述されていない例]

- IPv6 の記述例がある

```
127.0.0.1 localhost localhost.localdomain
192.168.0.1 mailwall.xx.xx.co.jp mailwall
::1 localhost localhost.localdomain
YY.YY.YY.YY .....
```

- ホスト名の記述がない

```
127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
YY.YY.YY.YY .....
```

- ループバックアドレスにホスト名が記述されている

```
127.0.0.1 mailwall localhost.localdomain localhost
YY.YY.YY.YY .....
```

②IPv6 の無効化

RHEL6 では IPv6 がデフォルトで有効になっております。GUARDIANWALL V7.4 では IPv6 を無効化してください。

/etc/modprobe.d ディレクトリ配下に ipv6.conf を以下の内容で記述作成してください。

[/etc/modprobe.d/ipv6.conf の記述例]

```
options ipv6 disable=1
```

③システムロケールの設定

GUARDIANWALL V7.4 では C ロケール(英語)もしくはそれ以外のシステムロケールを使用する場合は日本語 EUC を使用してください。

C ロケールへの設定方法

[/etc/sysconfig/i18n の記述例]

#LANG="ja_JP.UTF-8"	←コメントアウト
LANG="en_US.UTF-8"	←追記

3. Red Hat Enterprise Linux6 の各種機能のご利用について

RHEL6 は、インストール時にさまざまな機能を選択することができますが、その使用には十分な注意を必要とするものがあります。

①LVM(Logical Volume manager) の使用に関して

システムのパーティション設定を行う画面では LVM を選択することができますが、LVM の使用経験があるお客様のみご使用ください。この機能をご使用になる場合は、お客様責任の下にお願いいたします。

パーティション構成時に自動設定を使用されますと、LVM が選択されますのでご注意ください。システム運用後の、ディスク増設や構成変更等の際もご注意ください。

②ファイヤーウォールの設定に関して

ファイヤーウォールを有効にすると、システムは明確に指定されていない接続(デフォルト設定以外)を受け付けません。システム上で稼動しているサービスへのアクセスが必要な場合には、ファイヤーウォールを通じて特定のサービスのみが許可されるように選択する必要があります(管理サーバーと検査サーバー間、管理サーバーとPC間)。この機能をご使用になる場合は、お客様の責任の下にお願いいたします。

RHEL6 で本機能はデフォルトで有効になります。停止方法は下記の通りです。

②-1.サービス自動起動の停止

chkconfig iptables off
chkconfig ip6tables off

②-2.サービスの停止

service iptables stop
service ip6tables stop

③SELinux(Security Enhanced Linux) の使用に関して

SELinux ではあらゆる対象(ユーザ、プログラム、プロセス)および対象物(ファイルやデバイス)に対して詳細なパーミッションを設定します。あるアプリケーションが機能す

るために必要となるパーミッションだけをそのアプリケーションに安全に許可することができます。システム全体の総合的な理解が必要不可欠となるため、この機能をご使用になる場合はお客様の責任の下にお願いいたします。SELinux についての詳細は、RHEL のインストールガイドなどをご参照ください。

RHEL6 で本機能はデフォルトで有効になります。停止方法は下記の通りです。

③-1. 設定ファイルの更新

[/etc/selinux/config の変更例]

#SELINUX=enforcing	←コメントアウト
SELINUX=disabled	←追記

③-2. サーバー再起動を実施して設定を有効化します。

■ GUARDIANWALL V7.4 をインストール後に

RHEL6 環境で GUARDIANWALL を使用する場合は、下記の通り設定いただく必要があります。

① GUARDIANWALL の管理サーバーの設定ファイルへの記述

RHEL6 のインストール時にデフォルトでは Sendmail はインストールされず、Postfix がインストールされます。GUARDIANWALL が使用する MSP を Postfix とする場合は管理サーバー上の設定ファイル(/opt/Guardian/Admin/etc/admin/admin.conf)に Postfix 用の設定を追記いただく必要があります。

[/opt/Guardian/Admin/etc/admin/admin.conf への追記例]

[SMTP]
MailSubmissionProgram = postfix
PostfixQueueDirectory = /var/spool/postfix

② GUARDIANWALL が使用する MSP を Sendmail とする場合の注意事項

RHEL6 でのインストール時に Sendmail のインストールを選択すると、バージョン 8.14.x の Sendmail がインストールされます。GUARDIANWALL が使用する MSP を Sendmail とする場合は GUARDIANWALL の「8.12/8.13」のオプションスイッチを ON としてご利用ください。

以上